

第4回長野県地域公共交通活性化協議会北アルプス地域部会 議事概要

日 時 令和5年7月26日（水）15:00～16:35

場 所 オンライン開催

【開会（事務局）】

1 あいさつ（県北アルプス地域振興局企画振興課 土屋課長）

- ・県地域公共交通計画の策定については、今年12月までに内容を固め、来年2月の公表を目指し、進めているところ。
- ・本日は主に計画の中に記載する北アルプス地域編の素案についてご議論いただく予定であるが、現時点で検討、調整が必ずしも十分でないことから、皆様の意見を頂戴し、ブラッシュアップしたい。
- ・今回で4回目の部会となるが、これまでの意見は計画の中に落とし込むとともに、計画策定後のより良い地域公共交通を目指す取組のベースとなるため、忌憚のない意見をお願いしたい。

【新構成員紹介（事務局）】

2 会議事項

（1）長野県地域公共交通計画地域編（素案）について

【資料に基づき、県交通政策課丸山課長、特定非営利活動法人 SCOP 富樫主任研究員 説明】

【意見交換】

（大町市立大町総合病院 北澤総務課長）

- ・資料3の8-3 地域公共交通の課題の中で、通院・通学の利便性の向上を記載されているところであるが、病院の利用者には高齢者が多く、特に白馬・小谷の方で車を持たない方も増えてきているので、しっかりと足の確保をしていただきたい。

（大町市 鷲澤情報交通課長）

- ・資料3の市町村界をまたぐバス路線の状況の中で、平成の大合併前の区分のものとあるが、どうして合併前のものとしているのか。

（特定非営利活動法人 SCOP 富樫主任研究員）

- ・地域間幹線系統の補助要綱で起終点が比較的大きい都市につながっていること、平成の大合併前の区分での市町村をまたぐこと、その他輸送人数等が定められている。その補助要綱と連動するよう作成しているためである。

(池田町 寺嶋住民課長)

- ・資料3の8-3 課題に関して、池田町には JR が走っていないため、1 つ目の課題にあるとおり、大糸線への各駅への接続が確保されることが大事とあるが、まさにそのとおりである。
- ・3 つ目の課題について、市町村域を越えた移動の確保については、池田町としては特に高齢者の足の確保という意味で重要であるとする。
- ・JR 3 駅への巡回バス路線を運行しており、池田町としてもこれらをどう充実していくかが課題と認識しているところである。

(白馬村総務課 山岸企画調査係長)

- ・資料3の4 ページ、各市町村の交通結節点について確認したい。アルピコ交通さんの長野からの路線があるが、時期によっては駅よりも八方バスセンターの方が利用者数が多い状況もある。八方を拠点として含めた方が良いと感じる。白馬村としては、村の地域公共交通計画が令和7年度に更新となるが、国の補助施策や県の計画等ともからめて準備を進めている。

(小谷村 山田観光地域振興課長)

- ・公共交通を広域で取り組むことは賛成である。市町村間をまたぐバスというのは必要なことだと思うが、主要幹線である国道148号は高速化しており、バス停を作ることについてハードルが高い。乗り降りする場所の環境整備によって利用者数が増えるため、利用しやすい環境整備というハード面の観点も大事であるとする。

(東日本旅客鉄道(株) 長野支社 小山信濃大町駅長)

- ・資料3の記載について、特段意見はない。
- ・情報提供であるが、今年の7月1日から9月30日までの土日祝日の間、特急あずさの延長運転を行っている。信濃大町駅からは大町市が手配した木崎湖への無料バスも運行されているが、利用者数は少ない。また、駅に到着されたお客様から路線バス等の乗り場の問い合わせが多い。分かりづらいのではないかなと思う。

(西日本旅客鉄道(株) 金沢支社 米山交通企画室長代理)

- ・資料3の8-3 課題の2 つ目に、大糸線について「多いとは言えない」とあるが、大糸線の状況は今まで説明させていただいたとおり、平成4年をピークに減少しており、沿線の環境変化が影響しているということが大きな課題と認識している。このため、「多いとは言えない」という表現は実態に合わないのではないかな。可能であれば記載について、再考いただきたい。
- ・小谷村において振興会議が設置され、こんな取組はできないか、と大糸線の利用促進につながるご提案もいただいております、我々としてはお礼を申し上げるとともに、地域編の中にそういった取組も記載すべきではないかなとする。

- ・資料3の8-3 課題の2つ目に、「活性化協議会などで利用促進に努めています」とあるが、我々としては利用促進だけでは大糸線を含めた地域課題の解決につながりにくいのではと考える。また、「利便性に課題がある状況」とあるが、地域の皆様が今よりも使いやすく、かつ、持続可能性の高い公共交通を共に作り上げていきたいと考えている。それにあたっては、具体的な交通体系の議論をしていかないといけないと考える。可能であれば記載について再考いただきたい
- ・最後に1点質問であるが、資料3の4 ページCの圏域内連携軸の記載について、「今後はJR 大糸線のさらなる利活用や圏域内連携軸に該当するバス路線などの検討も必要」とあるが、ここで言うバス路線というのは、大糸線と並行するものか、二次アクセスを想定しているものか、どちらか教えていただきたい。

(特定非営利活動法人 SCOP 富樫主任研究員)

- ・ご質問に関してだが、北アルプス地域の圏域内連携軸のバスは長野・白馬線のバスをイメージしているので、鉄道と並走するものではない認識である。基本的には長野へ結ぶ軸として考えていただきたい。

(県交通政策課 丸山課長)

- ・3つご意見をいただいた。大糸線に関しては、我々も別の会議で議論させていただいており、ご意見の趣旨も承知している。今後策定していく中で新たな動きもあると考えられるため、最終リリースの時に最適な形になるよう調整させていただきたいと考えているので、引き続きご意見頂戴したい。

(アルピコ交通(株) バス事業部 工藤白馬営業所長)

- ・資料3の8-2 概況の2つ目について、「白馬山麓スキー場エリアを結ぶ路線」とあるが、白馬・八方・拇池線は白馬駅を拠点に八方を経由し、拇池に向かう路線であり、記載は誤りと思われる。冬は大町から白馬バレーを結んでいる路線があるため、こちらのことを記載しているのではないか。
- ・長野・白馬線は当社で運行しているが、長野・白馬だけではなく小谷村の拇池高原、白馬乗鞍まで運行しているのでご承知おきいただきたい。

(特定非営利活動法人 SCOP 富樫主任研究員)

- ・令和3年度にカルテ作成業務の際に作成したデータがベースとなっているが、それから日が経っており、古くなっているものもあるため、今後データ更新させていただく。

(アルプス第一交通(株) 菅谷所長)

- ・特に意見はない。

(アルピコタクシー（株） 薄井大町支社長)

- ・説明内容について問題ないと考えている。
- ・大町・長野線について、冬期は当社で運行しているが、日に3便しかないなのでこの計画に記載されていないのかもしれないが、冬期インバウンドの二次交通という意味でも入れていただけるとありがたい。

(県大町建設事務所 宮下企画幹兼維持管理課長)

- ・表記は問題ないと思われる。
- ・資料3の8-2 概況の3つ目や8-4 将来ネットワークに池田町営バスについて記載されているが、資料2の全県のネットワークイメージ図を見ると池田町と松川村の間に軸が引かれていない。

(特定非営利活動法人 SCOP 富樫主任研究員)

- ・ご指摘のとおり、池田町と松川村の間には黄緑の軸が入っているが隠れてしまっている。見えるように修正する。

(大町警察署交通課 奥原交通規制係長)

- ・素案について同意する。
- ・資料1の2 現状・課題において、公共交通利用者の減少の比較年度がR元とR2になっている。コロナにより移動が制限され、移動が少なくなった時期なので交通離れ以外の要因があるのではないかと考える。今年度からコロナが5類に分類され交通量も戻ってきているため、状況も変わるのではないかと思う。

(国立大学法人信州大学工学部 高瀬准教授)

- ・これまで出た意見について、どこまで参考にするのか疑問である。
- ・県の交通計画として、A～Dの軸まで記載するという方向性は了解する。
- ・ただし、一番大事なのはEの軸で出発地も時間もバラバラであり、それをどううまくすり合わせるかということに関して、議論する場がないというのは不満である。本来であれば、Eの軸に関して、振興局が市町村の課題を吸い上げて、どうしたらよいかアイデアを出し合うべきである。議論する場がないのがよく分からない。南信州や木曽、松本3市村は既に広域で計画が立てられたり、検討されているため今回は県との住み分けを行うだけで良いが、北アルプス地域は事務局が中心となってEの部分について各市町村の現況を整理して検討を行っていくべきではないか。
- ・県の交通政策課が考えている方向性は分かるが、何のために部会をやっているのか。AからDの軸を整理しても、肝心のEの軸がうまくいかなければ、成り立たない。

(県北アルプス地域振興局 土屋課長)

- ・ご意見の趣旨は重々承知している。
- ・振興局としては、ご指摘の内容は次の段階であると考えている。県全体の進め方がある中で、まずは計画策定を行い、次に県全体の支援策がどこまでできるかということがある。それを踏まえて、具体的な取組を考えていく場がこの地域別部会であるとする。進め方の話であり、部会で検討しないとは言っていないので、そこはご理解いただきたい。

(県交通政策課 丸山課長)

- ・基本的には、木で例えると各市町村が枝葉の部分、県としては幹の部分を作っていくものと認識している。それを同時に議論するのが理想的ではあるが、計画策定のスケジュールもあることから、今年度については、市町村路線については市町村で検討し、県は広域的な路線について整理している状況であり、それはご理解いただきたい。
- ・来年度以降、枝葉と幹の部分のつなぎ合わせることにについて議論をしていきたいと考えている。今年度については、他地域も含めてこのような形で進めている。

(2) 公共交通情報オープンデータ活用事業について

【資料に基づき、県交通政策課 宍戸課長補佐兼交通企画係長 説明】

【意見交換】

(国立大学法人信州大学工学部 高瀬准教授)

- ・オープンデータ活用事業なので、自治体にはグーグルマップで検索できるくらいの情報提供しかないと思うけれど、「活用」という側面でも検討していただきたい。
- ・信州ナビやバスロケーションシステムの「活用」について考えているか。

(県交通政策課 宍戸課長補佐兼交通企画係長)

- ・活用方法については、現在検討を進めている。
- ・利用者が普段使いしているアプリで利用できる環境が大事であるため、そういった視点でバスロケーションシステムや経路検索サービスの在り方を考えていく必要がある。
- ・また、情報収集中であるが、交通 IC の状況や GTFS の情報を分析できれば有益であると考えている。構築方法や予算確保は課題として認識している。

3 その他(事務局)

次回会議は秋ごろの予定

【閉会(事務局)】